

# 弘大が中核研究大

## 健康研究 世界最高水準へ

日本学術振興会は24日、本年度の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に弘前大学など全国の13大学を採択したと発表した。日本をリードする研究をさらに伸ばし、それぞれの分野で世界最高水準を目指すのが狙いで、各大学はそれぞれ、今後5年間で最大55億円の国補助を受けられる。弘大は世界でも類を見ない規模の健康ビッグデータを生かし、ウェルビーイング（健康で幸福）な社会づくりを海外に広げる研究を加速させる。（赤田和俊）



研究拠点施設「グロバーホールウェルビーイング総合研究棟」の完成予想図（弘前大学提供）

## ハーバードなど参画 最大55億円 国支援

### 弘前大「地域中核研究大学事業」の主な参画機関

海外	ハーバード大、ジョンズホプキンス大、米国立衛生研究所(以上米国)、レスター大(英国)
国内	京都大、東京大、筑波大、九州大、京都府立医科大、和歌山県立医科大、名城大、富山大、名城大、秋田大、岩手大、岩手医科大、東北大

中核研究大学強化促進事業では、世界的な強みを持つ大学を中心にさまざまな研究機関が連携し、先進的な研究に取り組む。世界最高水準の研究力を目指す「国際卓越研究大学」（東北大学ほか数校を認定予定）に準じる事業で、本年度までの2カ年で計25大学が選ばれた。東北地方では弘大と山形大学のみ。同事業は最長10年まで延長可能だ。弘大は、岩木健康増進プ

ロジェクト健康（岩木健康）などで20年間集めてきた膨大な数と種類のビッグデータが強み。データを基に一人一人に合った健康づくりをアドバイスすることで、「子どもから大人まで健康で幸せに暮らせる社会」の実現を目指している。今回の採択で、弘大は国内のウ

エルビーイング研究のけん引役を担うことになるという。弘大の研究には京都大や東大などが参画。ハーバード大（米国）やレスター大（英国）、米国立衛生研究所など海外からも参画等定で、研究者の派遣交渉も進めているという。

研究拠点施設「グロバーホールウェルビーイング総合研究棟」（4階建て、延べ床面積約2800平方メートル）は本町キャンパス内に3月完成予定。研究の中核を担う「グロバーホールウェルビーイング総合研究所」と「ウェルビーイング社会実装本部」を設

け、研究者やサポート人材の増員、研究設備の整備を進める。弘大は24日、採択を受けた報道発表で「世界的なウェルビーイング研究や産学連携によるイノベーション創出を加速させる」と説明した。27日に学長会見を開く予定だ。